

東京藝術大学

美術学部 | 大学院美術研究科

油画 2017

Oil Painting 2017

Faculty of Fine Arts | Graduate School of Fine Arts

Tokyo University of the Arts

東京藝術大学

美術学部 | 大学院美術研究科

Faculty of Fine Arts,
Graduate School of Fine Arts,
Tokyo University of the Arts

油画 2017

Oil Painting 2017



油画の風景

東京藝大油画では、美術・造形表現の根幹である「絵を描く」という基礎を踏まえながら、さらに新しい表現活動に挑戦する専門家の育成を目指しています。多様なメディアにまで拡張された現代の表現に対応すべく、日々、さまざまな授業を展開しています。そして藝大油画という創作の現場で力を養った学生たちが、世界へと羽ばたいていくことを願っています。



楊博 [大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画1年]

HEY MR IGGY POP
油彩、シュークリーム、オイルスティック、
キャンバス、鉄板、ステンレスターバンバックル、
ステンレスボルト、柱材、二液型ポリウレタン
450×450×12 cm
2017 (卒業制作作品)

言語の形成は地域文化や個人経験に依拠するため、翻訳においての最終的な不可能性は、とても超えがたいものであるように感じます。それに対して補うために、または踏ん返り返るために人々が施す工夫に対する興味から、文字を使った作品に取り組んできました。

本作では実体を持たない文字というモチーフを、絵画の手法でイメージとして扱い、またペインティングする行為においてはイメージを支える物が、実際には布や木枠、もとい壁や地面などの物質であるということを強調するための構造にチャレンジしました。卒業に当たって、童心を忘れないために、パンクロックのゴットファーザーと呼ばれ、今なお第一線で精を出しているイギー・ポップへの手紙を書くことをテーマとしました。



塩出 麻美 [大学院美術研究科後期博士課程美術専攻油画 1年生]

存在の点滅・つながりの膜
油彩、ドローイング、パフォーマンス など
2017(修了制作作品)

展示は、圧縮すれば時間と描く行為を含んだキャンバスだ。パフォーマンスも最終的には圧縮される。
平面にこだわるのは、表現したい「存在」「空間」が現実で成り立つものではないからだ。
平面には物質的に、本当にわずかに「立体」である凹凸が必要で(ある状態が設定された平面)、その凹凸を①無限に拡大する、②ある一様さにより「平面」に圧縮する。
この矛盾ある状態を絵画として成立させ得た時、「存在の点滅・つながりの膜」が表現できる。
その空間は空気が立体的にあるわけでは無く、霞(翳み)の拡がりではない。
それでも拡がり、縮んでいる。
止まっている筈の平面なのに、存在が点滅している。
平面は動く。感動しているならば。

油画のカリキュラム

ドローイングから表現活動へ



学部1年 | 油絵具製造実習



学部1・2年 | 選択カリキュラム中間講評



藝祭2016 | 学部1年生による神輿



学部3年 | 学外展 全教員批評会



学部1・2年 | 選択カリキュラム



学部1年 | 授業風景



学部2年 | 進級展——大澤晴美《Home sweet home》

美術学部

学部1年生

基礎課程 [学部1, 2年生]

※平成28年度より、これまで取手キャンパスで行っていた学部1年生の授業を上野キャンパスに統合し、基礎課程の一体化教育が行われています。

学部2年生

1年次は、通年の共通課題として、絵画造形全般の基礎としてのドローイングを中心に据えながら、絵画の基礎的要素(イメージ・物質・行為・環境)を提示した基礎実技指導を行なっています。また、壁画実習や地塗実習に取り組み、絵画の発生から技法・材料に係わる基本を学びます。

2年次は、1年次で学んだ絵画の基礎的要素の更なる可能性を探っていきます。通年、様々な選択カリキュラムが開設され、学年末には基礎課程の最後として、制作と展示を行ないます。展示は「進級展」として一般公開されます。全教員が作品を審査し、合格した者が3年次からの「専門課程」へと進むことになります。

学部3年生

専門課程 [学部3, 4年生]

学生は3年次より以下の3コースに分かれ、各担当教員のカリキュラムに基づいた創作研究を行ないます。

- 絵画表現コース
- 素材と表現コース
- 現代美術表現コース



学部3年 | 学外展示 ゲスト講師講評会[勝俣涼氏]



学部4年 | 全教員最終講評会



学部3年 | 古美術研究旅行



学部4年 | 講評会[現代美術表現コース]

学部4年生

専門課程においては、学生個々の自主的な創作研究が中心となり、基礎課程を踏まえ、自己の表現の内容とその表現手段を展開し深化させる専門実技指導を行なっています。3年次より絵画表現・素材と表現・現代美術表現の3つのコースに分かれ、より専門的な創作研究を行ないます。また3年次には、2週間にわたる奈良・京都を中心にした古美術研究旅行があり、古典芸術と出会うことで、新たな自己を発見する機会が設けられます。古典から現代にまで続く芸術表現の多様性に応じて、学生が自己の資質を発見し、独自の表現とその表現手段を深化させていく過程が、基本的な学部の4年間です。その成果として「卒業制作」があり、その作品制作に4年次の1年間が与えられています。



学部4年 | 卒業制作展——春田紗良《ほしのうみ》ほか



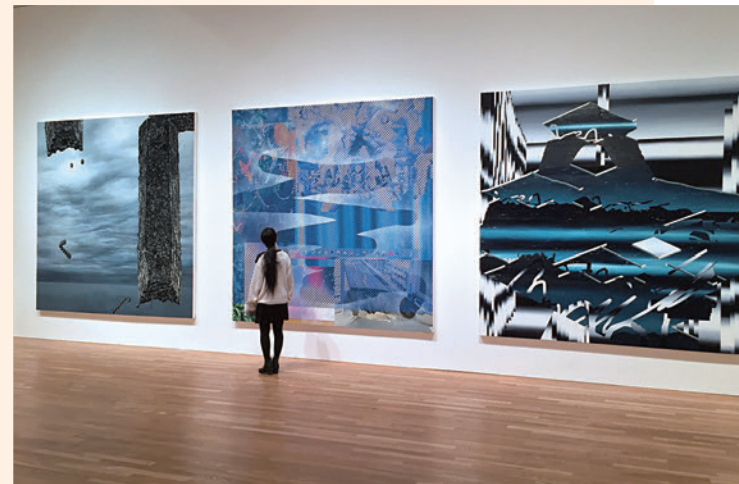
修士1年 | アトリエ風景[油画第4研究室]



修士2年 | 修了作品展——
盛田亜耶《生命の連鎖ーヴィーナスの誕生ー》



博士3年 | 博士審査展 論文発表会



博士3年 | 博士審査展——吉田晋之介 左から《Days II》,《グレア》,《プールXI》

大学院美術研究科

修士課程1, 2年生

修士課程は、自己の表現領域において更に専門的に創作研究を行ない、社会に対応する独創性豊かな人材を育成するため、各研究室担当教員の徹底した個別指導のもと、独自性を尊重した教育を実践しています。同時に、複数の研究室による共同企画や合同授業によって横断的な連携指導も行なわれています。また、他分野の専門領域の理解を深め、表現内容とその表現手段を、社会と対応する美術表現に結びつける方法を修得するために、学外から数多くのアーティスト、キュレーターや評論家を招き、多角的な側面からの集中講義も開設しています。

博士後期課程1, 2, 3年生

博士後期課程においては、博士学位取得を前提とし、制作、理論双方を担当教員と、それを補佐する複数の教員によって、より高度で総合的かつ複合的なグループ指導が行なわれます。さらには協定校との交換留学や共同プロジェクトにより国際的美術活動を展開し、自己の創作研究活動を社会に向けて発信できる専門家育成のための指導を行なっています。

交換留学への取り組み

国際的なアーティストを目指すためにチャレンジする

本専攻は本学開校以来、国際的視野に立って創造研究を行ない、多数の学生が海外へ留学しています。近年は国際交流協定校の増加に伴い、欧米だけではなくアジアへの留学生も増え、積極的な国際交流が行なわれています。パリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学、グリフィス大学、中国美术学院、シカゴ美術館附属美術大学など、毎年様々な国々との交換留学、交流展、合同授業、ワークショップ等を国内外で実施しています。

留学生の受け入れ

互いの文化を知り、意識を深める

国際性と大学院教育の高度化、国際交流を促進するために、留学生受け入れと在学生の派遣の拡大を積極的に推進しています。これまでに韓国、中国、タイ、インド、パキスタン等のアジア諸国をはじめフランス、ドイツ、オーストリア、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、多数の留学生が本専攻に在籍し、様々な国の表現活動によるコミュニケーションが行なわれています。

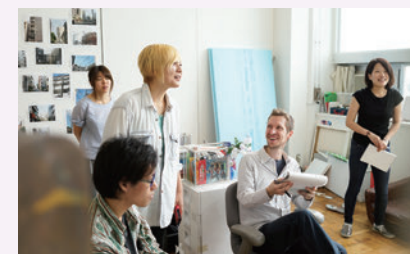
英語教育の充実

コミュニケーション能力の育成

本専攻は独自の英語プログラムを実施しており、外国人講師による、アーティストとして活動するために必要な英語を学ぶ授業がカリキュラムに組み込まれています。渡航や海外での活動を想定しながらの実践的な授業内容で、語学としての英語はもちろんのこと、国を越えてのものづくりを想定したコミュニケーションを学ぶ場となっています。



油画英語学習の様子



油画英語演習授業（非常勤講師：ジェイミ・ハンフリーズ）

平成29年度油画 芸術国際交流協定校への短期留学 派遣計画

中国	中央美术学院、清华大学美术学院、中国美术学院、広州美术学院
韓国	ソウル大学校美術大学、韓国芸術総合学校、大邱大学校造形芸術大学、韓国伝統文化学校、淑明女子大学校
台湾	国立台南芸術大学（*大学院のみ）、国立台湾芸術大学、国立台北芸術大学、国立台湾師範大学芸術学院（*大学院のみ）。
シンガポール	ラサール・シア美術大学
オーストラリア	シドニー大学、グリフィス大学（*大学院のみ）メルボルン大学
イギリス	ユニバーシティ・カレッジ・フォー・ザ・クリエイティブ・アーツ（*学部のみ）、ロンドン芸術大学（*大学院のみ）、ロイヤルアカデミースクールズ（*大学院のみ）
ドイツ	ワイマール・パウハウス大学、ハレ・ブルグ・ギービヒェンシュタイン芸術大学、シュトゥットガルト美術大学
フランス	パリ国立高等美術学校（*大学院のみ）、ナント美術大学
オーストリア	ウィーン応用芸術大学（*大学院のみ）、ウィーン美術アカデミー
ポーランド	プロツワフ美術大学（*大学院のみ）
トルコ	アナドル大学、ミマル・シナン美術大学
スコットランド	グラスゴー美術大学（*大学院のみ）
タイ	シラパコーン大学（*大学院のみ）
イスラエル	ベツァルエル美術デザインアカデミー
スイス	チューリッヒ芸術大学（*大学院のみ）

石橋財団国際交流 油画奨学生制度

挑戦する学生への支援

本奨学制度は、油画の優秀な学生に対し、夏休み期間などを利用した海外での研究活動のための資金と渡航費を援助する、本専攻独自のプログラムです。学生自らが研究計画を立て実行し、本学の交換留学制度との併用も可能です。帰国後には成果報告展示が行われます。これまでに24名の学生が世界各地を訪問し、今年度、第4回の募集が行われました。



平成27年度奨学生 成果報告会の様子

卒業後の活動

将来につなげる 油画の創作実習から

油画学生の卒業後の活動

個展、公募展、社会活動等で自作品を発表し、作家活動を開始する者をはじめとして、小・中・高等学校や国内外の芸術・美術・教育系大学の教員、また、美術系予備校、専門学校などの講師に採用される者も多くいます。近年では、美術館のキュレーターや、ゲーム・画像コンテンツ作成など企業への就職も増加しています。また、国費留学生や私費留学生として海外へ留学する者も多数います。

藝大油画在学生・卒業生による主な受賞および受賞展

過去5年間の抜粋

- 第1回枕崎国際芸術賞展 大賞(2016)
- 第20回文化庁メディア芸術祭 優秀賞
- 第55回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本代表(2013)
- Art Award Tokyo Marunouchi(2012~2016 | 審査委員賞ほか)
- トーキョーワンダーウォール公募(2012~2016 | 大賞ほか)
- TERADA ART AWARD(2014・2015 | 最優秀賞ほか)
- NBCメッシュテック東京国際版画ビエンナーレ(第2回~4回 | 大賞ほか)
- 第5回FEI PRINT AWARD 大賞
- 岡本太郎記念現代芸術賞(17回・18回・20回 | 特別賞ほか)
- 上野の森美術館絵画大賞(32回~34回 | 優秀賞ほか)
- ゴールデンコンペティション(2012 | 大賞ほか)
- アクリルガッシュ・ビエンナーレ(2016 | 入選ほか)
- TURNER AWARD(2012~2016 | 大賞ほか)
- シェル美術賞展(2012・2015 | 審査委員賞ほか)
- CAF賞(第1回~3回 | 最優秀賞ほか)
- FACE展 損保ジャパン日本興亜美術賞(2013・2015 | 審査員特別賞)
- VOCA展(2012~2016 | VOCA賞ほか)
- 第11回shiseido art egg 入選
- 第10回熊谷守一大賞
- 青木繁記念大賞西日本美術展(第4回 | 特別賞)
- ACTアート大賞展2015
- 日本版画協会 版画展(第80回~83回 | 準会員最優秀賞ほか)
- アダチ UKIYOE 大賞(第3回~6回 | 大賞ほか)
- 芸術選奨文部科学大臣賞(2013・2014・2015)
- 第7回はるひ絵画トリエンナーレ 準大賞
- 第1回ホキ美術館大賞 館長賞
- 第5回絹谷幸二賞
- 群馬青年ビエンナーレ2015 奨励賞ほか
- 第13回浜松市美術館版画大賞展(2017年 | 審査員特別賞ほか)
- 第6回佐野ルネッサンス鍍金展 第二部門(表現の可能性を拓く造形作品 大賞)
- ALBION AWARDS 2012 金賞
- 昭和会展 第51回昭和会賞
- 佐藤国際文化育英財団奨学生(2014・2016)ほか

藝大油画卒業・修了生の主な就職先

過去5年間の抜粋

- 東京藝術大学
- 多摩美術大学
- 京都造形芸術大学
- 東京工科大学
- ジャガンナート大学
(バングラデシュ)
- 私国公立学校美術講師
- 東京都美術館
- 歌舞伎座舞台株式会社
- 株式会社任天堂
- 株式会社ソニー
インタラクティブエンタテインメント
- 株式会社ミクシィ
- 株式会社生活の友社
- カウモ株式会社
- 株式会社サイバーエージェント
- 株式会社カヤック
- 株式会社ボディワーク
- アクセサリーブランド
BloodyMary
- 株式会社ジー・シー
- 有限会社ヘルベチカ
- 有限会社アトリエ・恵比寿
- 有限会社レモン
- 有限会社マジックボックス
- キャリアスタート株式会社
- 株式会社サンゲツ
- 株式会社イッセイミヤケ
- 株式会社ドキュメンタリージャパン
- 株式会社コスモスモア
- 株式会社アドテイスト
- 株式会社広島アンデルセン
- 株式会社パラダイス・カフェ
ほか



岩井 優 [2009年 大学院美術研究科博士後期課程 修了]

《ホワイティビル・ウォッシング》

2012年 | 3チャンネル・シンクロ・HDビデオ、サウンド11'30" | 六本木アートナイト2013

油画の教員と研究室紹介

油画教員より皆さんへ
ここだからこそこのできることに

小林 正人 Masato Kobayashi
教授 | 油画第1研究室

プロの画家、つまり既成概念に囚われない人間の輩出を目指す。
夢、ヴィジョンを現実のものにしていく実践、未来の自分のため今失敗する勇気！ハートとテクニックを徹底的に磨いて欲しい。

ミハエル・W・シュナイダー
Michael W. Schneider
准教授 | 版画第1研究室

美術は無数のコミュニケーションの糸が織りなす複雑な織物と言えます。
版画はアーティストが主張とする作品を広める最初のメディアでした。それは物事を複製し出版する為の表現であり、本質的に批評性、政治性、社会的意識を含みます。
版画とは伝統的な技術に基づいた、現代的な美術のメディアなのです。

小山 穂太郎 Hotaro Koyama
教授 | 油画第2研究室

フィールドワークを通して、外界に敏感な感性を持って創作を試みる。絵や映像、画像イメージが生み出されるなかで、本当に見えてくるものとはなんなのだろうか、実験精神を発揮して、発見と新たな経験を求める「旅」のような作品創作の時と場を考えている。

三井田 盛一郎 Seiichiro Miida
准教授 | 版画第2研究室

版画第2研究室では日本の伝統を起点に、版画を歴史、地域、素材、概念および現代の問題を様々な角度、方向から研究します。
思考するための起点、基軸、座標を明確にすることで新しい視野、制作のパースペクティブの獲得を目指します。

篠田 太郎 Taro Shinoda
准教授 | 油画第3研究室

せめて学生の間は視野を広げることに専念してほしい。そしてあらゆる実験を繰り返してほしい。完成した作品を作ろうとしないほしい。作品を完成させる時間は卒業してからたっぷりあるのだから、、、

中村 政人 Masato Nakamura
教授 | 壁画第1研究室

国際的な現代美術シーンから地域芸術文化振興までアートと社会を有機的につなぐアートプロジェクトを実証的に研究。オルタナティブかつサステイナブルな社会意識と実践的スキルを企画展制作やアートプロジェクト、アーティストインレジデンス等に参加し学んでいく。

杉戸 洋 Hiroshi Sugito
准教授 | 油画第4研究室

一年かけて自分の枠をつくること。
二年目はそれに抜け口をつくること。
または分解出来るようにしておくこと。
輪ゴムを切って結んだようなフレームも好き。輪ゴムに質量を無くすことが出来るならば善い。

工藤 晴也 Haruya Kudo
教授 | 壁画第2研究室

壁画第2研究室は、幅広い造形表現を目指す人材の育成に努めています。
環境と素材、表現の関係を基本に、作品が成立する過程を複合的に研究することによって様々な条件に対応する能力を身につけます。インターンシップ授業を取り入れ、パブリックアートに関する専門性の高い授業を行っています。フレスコ、モザイク、ステンドグラスの工房を備えた研究室です。

保科 豊巳 Toyomi Hoshina
教授 | 油画第5研究室

第5研究室では、現代美術の分野における「身体と関わる環境、社会、時間との関係性」を中心的な研究テーマとし様々なアートプロジェクトを行なっている。
制作は、インスタレーション、メディア、など様々な媒体を使用し新しい現代表現を創造する目的をもっている。

齋藤 芽生 Meo Saito
准教授 | 油画技法・材料第1研究室

個々の繊細な内面世界をいかに外界に表出するのか。技法素材研究に留まることなく、表現方法を探る。特に「言語に関わる実験」「旅とその記録についての探求」という視点を取り入れた授業を行う。

坂田 哲也 Tetsuya Sakata
教授 | 油画第6研究室

絵画による制作研究を作品の独自性を尊重しつつ、学内外の企画展、個展や集中講義、異なる表現の文化を体験し、制作と日常の関係をも自身の絵画表現の中に取り込む姿勢を目指す。リアルな日常の地道な制作のドキュメントが、魅力ある新鮮な作品へと変貌を遂げる。

秋本 貴透 Takayuki Akimoto
教授 | 油画技法・材料第2研究室

油画技法・材料第2研究室では、自己表現としての絵画制作を中心に「絵画とはどのようなものか」という課題に絵画材料・技術の側面から取り組む。

O JUN
教授

制作の技術と方法、美術に関する広範囲な知識と見聞、時代認識、体力、耐性、君にとってかけがえのない何か。学部4年間でまずはこれだけを身につけてください。藝大油画には、そのための機会と人と場所があります。そしてそれからそれぞれにスタートを切ってください。

[客員教授]
水沢 勉
Tsutomu Mizusawa

[非常勤講師 油画]
竹村 京
Kei Takemura

古川 弓子
Yumiko Furukawa

安藤 孝浩
Takahiro Ando

寺内 誠
Makoto Terauchi

ジェイミ・ハンフリーズ
Jaime Humphreys

[非常勤講師 版画]
板津 悟
Satoru Itazu

鷹野 健
Takeshi Takano

[非常勤講師 壁画]
好宮 佐知子
Sachiko Yoshimiya

[非常勤講師 油画技法材料]

飯山 由貴
Yuki Iiyama

後藤 民雄
Tamio Goto

[助教]
高橋 涼太
Ryota Takahashi

藝大油画の構成

東京藝術大学 Tokyo University of the Arts

美術学部 Faculty of Fine Arts

絵画科油画専攻 | 1-4年

小林 正人 教授 [油画第1研究室]

小山 穂太郎 教授 [油画第2研究室]

篠田 太郎 准教授 [油画第3研究室]

杉戸 洋 准教授 [油画第4研究室]

保科 豊巳 教授 [油画第5研究室]

坂田 哲也 教授 [油画第6研究室]

O JUN 教授 ※大学院はグローバルアートプラクティス専攻を担当

ミヒャエル・W・シュナイダー 准教授 [版画第1研究室]

三井田 盛一郎 准教授 [版画第2研究室]

中村 政人 教授 [壁画第1研究室]

工藤 晴也 教授 [壁画第2研究室]

齋藤 芽生 准教授 [油画技法・材料第1研究室]

秋本 貴透 教授 [油画技法・材料第2研究室]

大学院美術研究科 Graduate school of Fine Arts

修士課程 絵画専攻 | 1, 2年

[研究分野]

油画 | 版画 | 壁画 | 油画技法・材料

博士後期課程 美術専攻 | 1-3年

[研究領域]

油画

油画学部入試情報

平成29年度合格者参考作品の紹介

油画 入試内容

絵画科油画専攻に在籍し、学業および実技が続けられる資質を選考するために、以下の内容の入学試験を課しています。

学科試験

学科試験は「センター試験」を採用しています。絵画科油画専攻の受験者には、実技能力だけではなく、自然科学、人文科学、語学といった幅広い分野の知識が要求されるので、3教科3科目を受験してください。

実技(1次)「素描」

この試験は、出題された内容を「素描」によって表現するものです。

出題を(1)どのように理解したか、(2)どのように観察したか、(3)どのように表現できたか、以上の3点を主に絵画表現の基礎的な描写力を評価します。

実技(2次)「絵画」

この試験は、受験生の資質と作品の独創性を問うもので、出題された内容を「素描・油彩」によって表現するものです。

「素描」では、出題された内容にしたがって、受験生の(1)構想力、(2)構成力、以上の2点を主に素描における個人の創造力を評価します。

「油彩」では、上記の内容に加えて、形態と色彩による総合的な造形表現能力を評価します。

以上、学科・実技のすべてを加えて、総合的に判断し、受験生の中から適性者を選抜します。

第1次実技試験「素描」

試験時間：5時間

〔出題〕 剥製・エアージェル材・紙箱の中から一つを選び、下記の言葉と組み合わせて描きなさい。「変化」

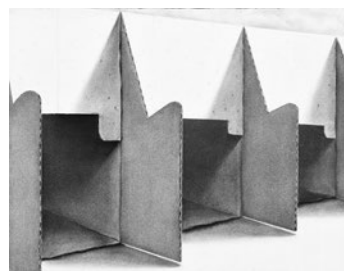
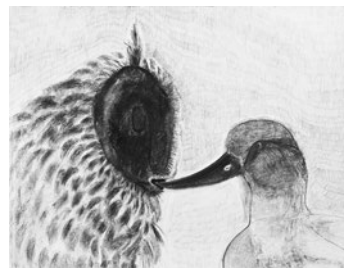
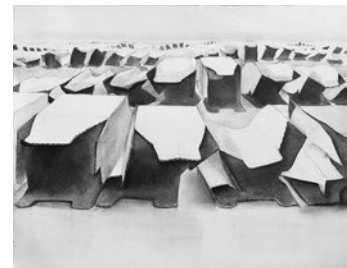
剥製



エアージェル材・紙箱



〔木炭紙 作品〕



上段左=エアージェル材+「変化」
上段右=紙箱+「変化」
中段左=剥製+「変化」
中段右=剥製+「変化」
下段=紙箱+「変化」

第2次実技試験「絵画」

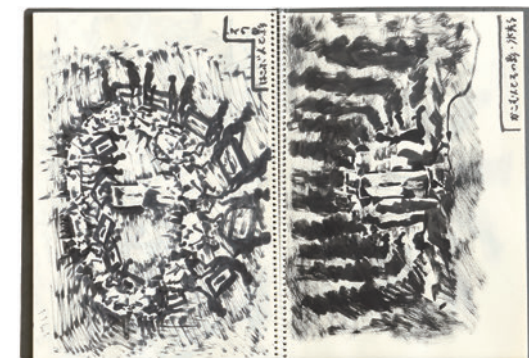
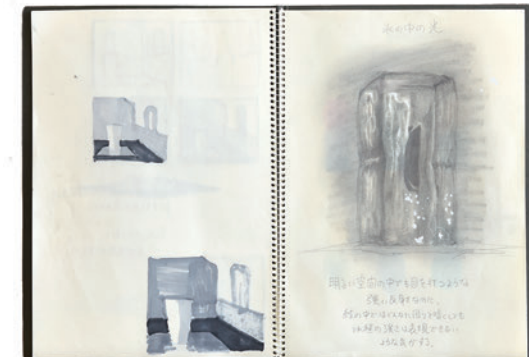
試験時間：
計18時間(3日間)

〔出題〕 室内の水と光、絵画棟内の風景を組み合わせて自由に描きなさい。

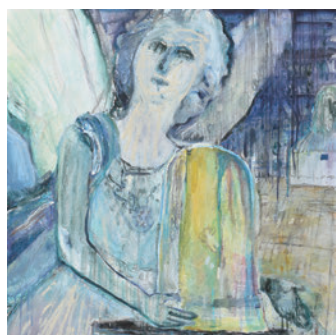
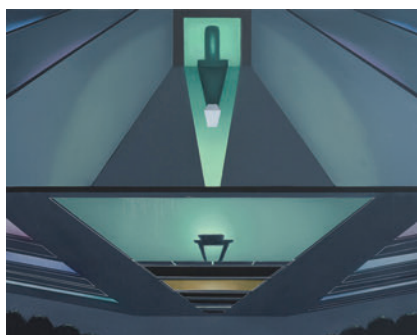
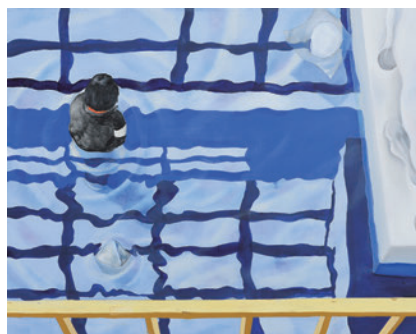
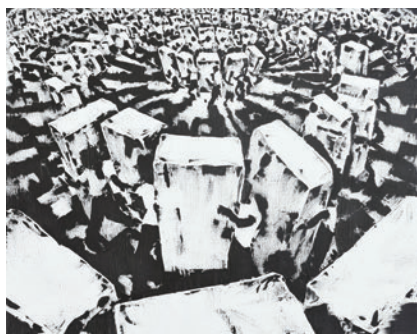
室内



〔スケッチブック作品〕



[キャンバス (F30号) 作品]



入学料・授業料

入学料: 338,400円※ 授業料(前期分): 267,900円※ (年額 535,800円※) ※予定額

入学料・授業料の免除・徴収猶予制度

経済的理由などにより学費の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合は、選考のうえ、入学料、授業料が免除・徴収猶予される制度があります。申請要件は次のとおりです。

1. 入学料免除

- (1) 経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合
- (2) 入学前1年以内に、申請者の主たる家計支持者の死亡または申請者本人もしくは申請者の主たる家計支持者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合

※学部入学者は上記(2)を満たしていることが必要です。

2. 入学料徴収猶予

- (1) 経済的理由により入学料の納付期限までに入学料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合
- (2) 入学前1年以内に、申請者の主たる家計支持者の死亡または申請者本人もしくは申請者の主たる家計支持者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付期限までに納付が困難であると認められる場合
- (3) その他やむを得ない事情があると認められる場合

3. 授業料免除

- (1) 経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合
- (2) 授業料の納付前6か月以内(新入生の場合、入学前1年以内)に、申請者の主たる家計支持者の死亡または申請者本人もしくは申請者の主たる家計支持者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合

4. 授業料徴収猶予

- (1) 経済的理由により授業料の納付期限までに納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合

大学予算により許可枠が決定するため、資格要件(家計基準・学力基準)を満たした者全員が許可されるものではありませんが、本学では例年、500名程度の申請者のうち約8割の学生が本制度により授業料の全額もしくは半額を免除されています。

奨学金

各自が申請する奨学金

- 日本学生支援機構奨学金制度
- 地方公共団体及び財団法人奨学金制度
(石橋財団国際交流油画奨学生 ※油画学生のみ対象／神山財団芸術奨学プログラムなど)
- 私費外国人留学生に対する奨学金制度
(神林留学生奨学会など)

ほか

東京藝術大学奨学金制度

- 久米桂一郎奨学金基金
- 安宅賞奨学金基金
- 上野芸友賞奨学金
- 平成藝術賞
- 平山郁夫奨学金
- O氏記念賞奨学金
- 依奨学金
- 佐藤一郎奨学金基金
- 野村美術賞奨学金
- ほか

個人又は団体等から本学へ寄附された基金等をもとに、学業優秀な学生又は研究室等に学資等を給付している制度です。本人の応募によるものでなく、学年末試験、課題提出等の成績優秀者に授与している奨学金です。

OIL

東京藝術大学
美術学部 | 大学院美術研究科
油画 2017

東京藝術大学
美術学部 | 大学院美術研究科
油画 2017

編集・発行 東京藝術大学 油画
印刷 渡辺印刷株式会社

東京藝術大学 油画
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
<http://geidai-oil.com>

7/10に印刷されている情報は2017年6月1日現在のものです。図版および文章の無断転載を禁じます。
© Oil Painting, Tokyo University of the Arts. All rights reserved.



For the English version of this brochure,
please visit the official Website of the Oil Painting
Department of Tokyo University of the Arts
starting from July 2017.